

# 平成20年度 病害虫発生予察情報 発生予報第3号（5月後半～6月前半）

平成20年 5月16日  
島 根 県

## 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや多い
		赤かび病	やや少ない
		うどんこ病	やや少ない
	イネ	ヒメトビウンカ	少ない
		ニカメイチュウ	少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並
果樹	ナシ	イネミズゾウムシ	平年並
		黒斑病	平年並
		黒星病	平年並
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	やや多い
		ハダニ類	やや多い
野菜	カキ	カキクダアザミウマ	平年並
	タマネギ	ポトリス属菌による葉枯れ	少ない
		べと病 腐敗病・軟腐病	多い やや多い

中国地方1か月予報（5月17日～6月16日・広島地方気象台5月16日発表）  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

気温	20%	30%	50%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	30%	40%	30%
	低い(少ない)	平年並	高い(多い)

### A. 普通作物

#### 1) ムギ

##### (1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや多い

予報の根拠

①巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率20.3%（平年3.8%）、  
発病莖率15.7%（平年1.4%）と平年に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は本病の発生を抑制する要因とはならない。

##### (2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①ムギの出穂は平年に比べて早い。

②巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率2.9%（平年10.1%）、  
発病莖率0.03%（平年0.81%）と平年に比べてやや少ない。

③向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 やや少ない

- ①巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率0%（平成2.6%）、  
発病茎率0%（平成1.8%）と平年に比べてやや少ない。  
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ①予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。  
②4月中旬のすくい取り調査では、発生量は平年に比べて少ない。  
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県下全域  
発生時期 やや早い  
発生量 少ない

予報の根拠

- ①前年の第2世代成虫発生量は平成比5%で、越冬量は少ないと考えられる。  
②予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。  
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 平成並

予報の根拠

- ①予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。  
②4月中旬の圃場すくい取り調査では、発生量は平成並みである。  
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生時期 やや早い  
発生量 平成並

予報の根拠

- ①前年の新成虫の誘殺数は平成並み（平成比53%）で、越冬成虫量は平成並み  
と考えられる。  
②予察灯への初飛来は、5月第1半旬で平成並みである。  
③有効積算温度による予測（5月14日現在）では、今後の気温が平成並みに推  
移した場合、越冬成虫の水田侵入盛期は平年に比べてやや早い見込みである。  
④向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下「二十世紀」栽培地帯  
発生量 平成並

予報の根拠

- ①5月7日の巡回調査（安来地区）では、発病葉率が0.26%（平成0.93）であり、  
発生量は平成並みである。  
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生量 平成並

予報の根拠

- ① 5月7日、県予察圃場で初発を確認した。
- ② 5月7日の巡回調査（安来地区）では、発生を確認していない。
- ③ 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月2日で平年並みである。
- ② 前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ③ フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシンクイの誘殺数はやや多い。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月1日で平年並みである。
- ② フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数はやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
- ② 5月上旬の巡回調査（安来市）では寄生花そう率は1.7%（平年2.8%）と平年並み。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯  
発生時期 やや遅い  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
- ② 5月15日の巡回調査では巻葉被害が認められた。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率18.2%（平年54.2%）、発病株率0.2%（平年12.6%）と平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

多い

予報の根拠

① 5月1日付け注意報第1号参照。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや多い

予報の根拠

① 巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率59.1%（平年20.6%）、  
発病株率1.0%（平年0.3%）と平年に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp